

# 平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査について

身延町教育委員会

文部科学省では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、調査の結果からみえてくる教育施策の成果と課題を検証しその改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、毎年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しております。今年度は中学校のみ英語も行いました。

今年は4月18日に実施し、身延町では小学校6年生58人、中学校3年生57人が参加しました。町では児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図っていきます。

なお、この調査結果については、国語、算数・数学と特定の教科のみ実施されたもので、全ての学力を測るものではないことをご理解ください。

## 児童生徒に対する調査

### ◎教科に関する調査

小学校… 国語、算数

中学校… 国語、数学、英語

※ 今年度調査より、すべての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分はなくなりました。

小学生（58人）	全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	ほぼ同じ	やや上回る
算数	ほぼ同じ	ほぼ同じ

中学生（57人）	全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	ほぼ同じ	ほぼ同じ
数学	ほぼ同じ	ほぼ同じ
英語	ほぼ同じ	ほぼ同じ

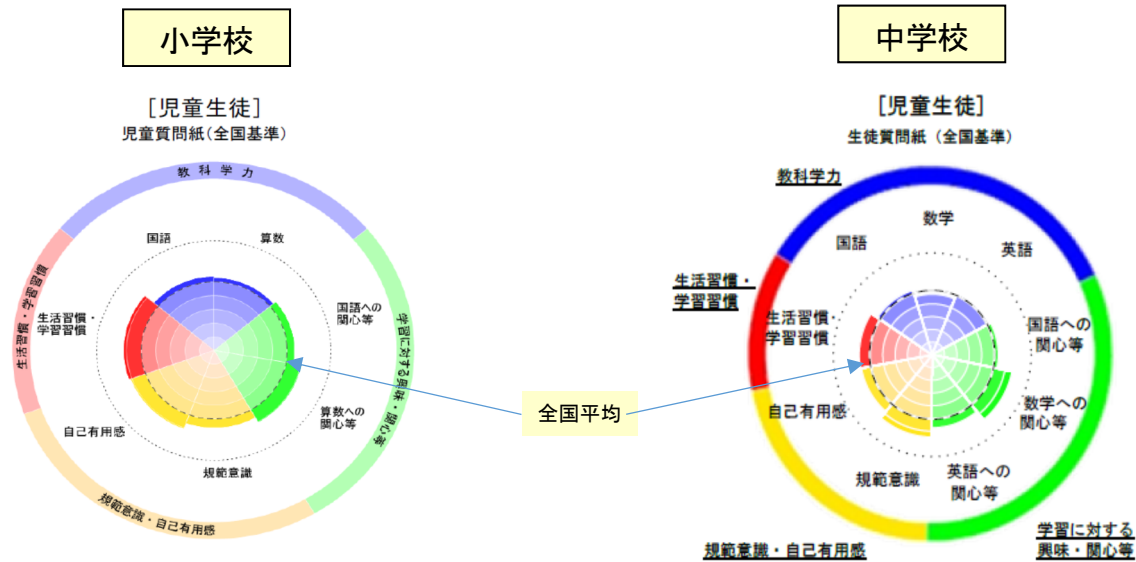
※ほぼ同じ… ±5ポイント未満の違い  
※やや上(下)回る… 5ポイント以上の違い  
※上(下)回る… 10ポイント以上の違い

身延町の調査結果は、概ね全国平均正答率と「ほぼ同じ」ですが、小学校国語では県平均をやや上回っています。

## ◎質問紙調査

「朝食を毎日食べていますか?」「学校の規則を守っていますか?」「家で自分で計画を立てて勉強していますか?」「将来の夢や目標をもっていますか?」など58～69項目の設問に児童生徒が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して児童生徒の様子や意識を測るものです。

回答を総合的にまとめたものが下記の表のとおりです。校則やルールを守るなどの「規範意識」、毎日同じ時刻に寝起きしている、新聞を読んでいるなどといった「生活習慣・学習習慣」などが、全国平均を上回っています。



## 学校に対する調査

## ◎質問紙調査

教職員の資質能力の向上や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況等に関して、64～80項目の設問に学校が回答するものです。

調査結果からみえる特徴は、教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させるなど教職員の資質能力、教育水準の向上に努めています。また昨年と同様に保護者や地域の方と学校の美化や登下校の見守りなど、協働による取組等を行い、地域と交流を深めています。

授業ではALT(外国語指導助手)を積極的に配置し、英語の読み書きだけでなく、外国人とのコミュニケーションを重視し、英会話力の向上を図っています。

## 総括

児童生徒の質問紙のうち、「学校の規則を守っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「学級みんなで決めたことに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」など規範意識、自己有用感等に関する事柄が全国平均を大きく上回っています。また「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問も全国平均を上回っており、家庭学習の定着が図られてきていると考えます。昨年度は中学校数学が全国平均・県平均ともにやや下回る結果でしたが、今年度は全国平均・県平均ともほぼ同じとなり、かなりの改善がみられます。また小学校国語では県平均をやや上回る結果となり学校や向学館での取り組みにより学力の底上げが図られた成果と思われます。これからも基礎学力の定着に向けた取り組みを進めていきます。

学校活動だけでなく、より一層の家庭学習の定着、向学館事業等における学習サポート、町における教育環境の整備等、引き続き学校、家庭、地域、町が連携して、確かな学力と豊かな人間性を育てていきます。